



SPring-8ユーザー協同体(SPRUC) 組織と活動の概要



SPRUC会長
東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授
雨宮慶幸





SPring-8利用者懇談会からSPRUCへ (2012)

組織改編の要点

- 1) 会員数: 約1,200人(建設期からの有志、全ユーザーの約10%)から、
約12,000人(学会の垣根を越えたSPring-8全ユーザーの自動的入会)へ
- 2) ミッション: 会員個々人の研究活動から、
SPring-8の有効な利活用動向調査のための会員間の情報交換へ
- 3) 運営: 研究会を中心とするボトムアップ的運営から、
「代表機関会議によるトップダウン」と「研究会によるボトムアップ」的運営が
バランスするアカウンタブルなセルフマネジメントへ

課題: 活動資金の確保 → 制度的ボトルネックの解決が必要
学会活動的な、会員個人の利用研究に資する会費徴収制度から、
施設と対峙して遂行するミッションへの対価としての資金獲得を目指す

組織改編の効果

- 1) 多様化するユーザー・新規ユーザーの利用動向を常に把握
Silent Majority の声を的確に活動にfeedbackする仕組みが可能に
- 2) 利用制度・組織の壁、利用分野の壁を取り払いコミュニティの融合を加速
共用BL/専用BL/理研BL、学術利用/産業利用、グリーンナノ/ライフイノベーション



第1回SPring-8シンポジウム(2012)

「Science, Technology and Innovation」
ー学術界、産業界におけるSPring-8の有効利用ー

日時: 2012年8月24日(土)13:00~25日(日)15:30

会場: 大阪大学コンベンションセンター (代表機関持ち回り)

主催: SPRUC、JASRI、理研、大阪大学

協賛: 日本放射光学会ほか

研究会活動報告:

全28研究会が活動報告

SPRUC Young Scientist Award:

- Xeniya Kozina (JASRI)
- Marcus Kitchen (Monash University)

パネル討論:

テーマ:「放射光科学のグランドデザインと
SPRUCの果たすべき役割」

日本国内の各放射光施設を代表する
パネラー陣による討論





平成 25 年 2 月 28 日
SPring-8 ユーザー協同体

した SPring-8 Upgrade Plan Preliminary Report に関する意見	5
アップグレードについて	5
全体に対する意見	5
に対する意見と要望、質問と研究分野における期待	6
に対する意見	7
に対する要望・質問	7
予・輸送器に関する意見、要望、質問	9
に向けた今後の SPring-8 における研究に関する意見	10
についての研究分野の意見、要望等	11
の Upgrade に関する一般的な意見	15
の時期と期間に対する意見と質問	15
費と期間に対する意見	15
費と期間に対する質問	15
に対する意見	16
g-8 に関する事項	17
イン、ハッチ及びステーション機器等の改修に関する意見	17
ラインの改修についての意見、要望、質問	17
体的な意見	17
体的な質問	18
予、ビームラインに特化した意見・要望	18
ーション機器の交換に関する意見	19
的な意見	19
意見	19
ームラインの整備公開に関する意見	20
ビーム研究施設との連携に関する意見	21
的な意見	21
予との連携	21
放射光施設 (SACLA を含む) との連携	22
利用者に与える支援業務に関する意見	23
・採択に関する意見	24
募集・採択に関する意見	24
実施時期に関する意見	24
ムタイム割り当てに関する意見	25

の内容を英文でまとめあげた施設員に対し敬意を表するとともに、新たなフィールド全体からの意見を集約するためにも、内容を海外にもわかりやすく要点をまとめレポートの作成を依頼し、日本語版両方での作成をお願いしたい。これは、近頃のバブリー研究会からの意見は、概ね頼り上げられたものの、その管理運営、内容説明に対しては希望が強く寄せられたため



第2回SPring-8シンポジウム(2013)

「Innovative Science & Technology for the Next Generation」
ー放射光科学の将来と産業イノベーションー

日時: 平成25年 9月 7(土), 8(日)

場所: 京都大学 宇治おうばくプラザ



企画委員会 & 作業部会 (WG) の設置

目的: SPring-8利活用の高度化と円滑化、科学技術的進展への協力
放射光科学・量子ビーム科学の発展と分野の展開

運用: 企画委員会の基に具体的なテーマに関する作業部会(WG)を随時設置。





作業部会:「放射光科学将来ビジョン」

目 的:

日本の放射光科学/施設のグランドデザインとSPring-8の将来計画の位置づけについて議論し、SPRUCとしての意見集約を行う。

期 間: 平成25年3月1日～平成26年3月31日

委員長: 濱 広幸(東北大)

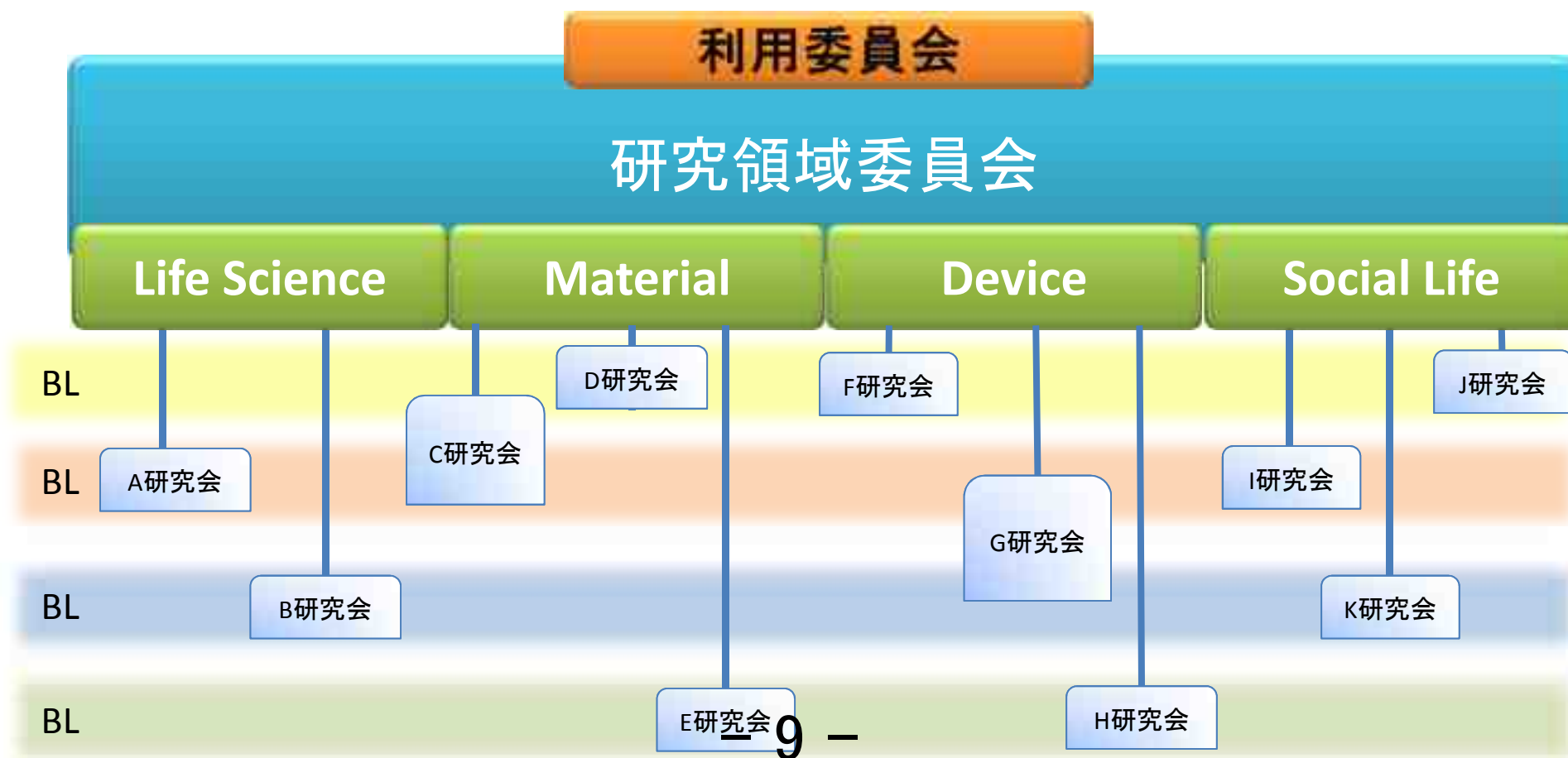


作業部会：「研究会組織検討」(仮称)

目的： SPRUCのミッションに基づく、研究会組織の再編と活動の活性化

検討課題：

- 1) 課題解決の観点から、研究会を束ねる研究分野再編
- 2) 施設高度化などの意見集約を加速する仕組みとして各研究会を、利用ビームラインの観点からも分類
- 3) 有識者からなる研究会顧問を組織し、大所高所からの分野融合について諮問



作業部会:「大学院連合検討」(仮称)

大学院連合とは

SPRUCの代表機関である大学院が中心となって、それぞれの大学院教育プログラムをSPRING-8に分枝させ、分野横断型・産学連携型のカリキュラムとして連合させる。

そして、放射光を実践的に活用した新しいSTIリーダーシップ養成をオンサイトで行う。

大学院連合が提供する人材育成ネットワーク



「大学院連合」を実現するための検討課題

- ・ 放射光施設に独自に必要なORT用の教育環境整備
学生的身分、生活支援、経済的支援
- ・ カリキュラムと参加大学(研究科、専攻)における単位認定
- ・ 産業界の専用BL等を利用したインターンシップの制度設計
- ・ 制度の振興を奨励するIncentiveと利用制度の設計

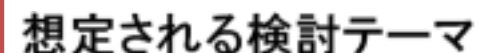


(登録施設利用促進機関による利用)

成果報告

文科省

登録機関の研究開発と ユーザー利用研究の有機 的な連携の促進



- テーマのニーズとシーズのマッチング
- 成果に結びつけるビームタイムの有効な連結活用
- マシン性能の維持・高度化のためのビームタイム活用

施設側への要望

SPRUCが、共用ビームライン、専用ビームライン、登録機関の研究者を含む全施設のビームラインのユーザーコミュニティを代表することとなった。

それに伴う施設側への主な要望を以下に記す。

<ユーザーへの情報開示と意見交換>

- 1)ビームラインのスクラップ・アンド・ビルド、将来計画について、代表機関会議を含めてSPRUCが、設置者である理研放射光総合科学研究センターおよび登録機関であるJASRIと定期協議を行う場が必要である。
- 2)上記の協議においては、利用研究に関わるSPring-8の運営及び外部評価に関する情報交換も必要である。
- 3)選定委員会及びPRCに、SPRUCの会長がユーザーコミュニティ代表として協議に参加し、ユーザーコミュニティとして、解決すべき課題を共有することが必要である。

<ユーザーコミュニティの継続的発展と活動資金確保>

- 4)上記のユーザーコミュニティとしての貢献は、SPring-8の責任ある運営の持続には必須である。そのためにも、会費を徴収しないミッションオリエンテッドな活動に専念するSPRUCの運営の在り方について、協議が必要である。